

二〇一一年の東京電力福島第一原発事故で放出された放射性物質をめぐり、各地の子どもたちの乳歯を分析して影響を調べる全国初の民間測定所が、年内にも岐阜市内で発足する。事故当時に生まれた子どもたちの乳歯が自然に抜け始める時期を迎えたことから、全国各地に呼び掛けて回収。蓄積した放射性物質ストロンチウム90の濃度を測定し、内部被ばくの可能性や放射能汚染の広がりについて調査に乗り出す。(小倉貞俊)

内部被ばく 乳歯で調査

福島事故受け 全国の子対象

運営に携わるのは、岐阜市で診療所を開く松井英介医師(左)、愛知医科大学の市原博客員教授(中)と工学)をはじめ名古屋大、岐阜大の研究者ら十三人。現在、岐阜市茜部本郷の建設会社の建物を測定所に改修する工事を進めている。原発事故で放出された放

射性物質のうち、ストロンチウムは骨や歯に蓄積しやすい。母乳や食物などを通



り、子どもたちに蓄積された可能性があるとして、松井さんらは一五年九月、乳歯の提供を呼び掛ける市民団体「乳歯保存ネットワーク」(岐阜市)を設立。これまでに約三百人分の乳歯を全国から集めた。

測定所の開設には、機器の購入代や建物の改修費など千五百万円が必要。さらにデータの収集・分析に

乳歯を分析する民間測定所開設に向け、話し合いを進める松井英介医師(右から2人目)ら。岐阜市で(川柳量撮影)

は長期間の継続した活動が欠かせない。「企業や団体、個人を問わず、多くの人が資金を出して参加できる仕組みが必要」(市原さん)と今年二月には、運営を担う非営利の株式会社「は」を設立。出資金を集めて、高い精度で測定できる米国製の機器を購入した。

また、松井さんらメンバー五人は乳歯のストロンチウム分析で実績があるスイス・バーゼルの州立研究所で研修、手法を学んだ。

乳歯の測定は、幅広い年齢や地域の年間四百人程度

を想定している。希望者は所定の用紙に出生地や育った場所、歯が抜けた日などを記し、前歯など小さな歯は四本程度、奥歯なら一本を送る。測定は無料。結果は一人ずつ知らせ、健康相談に応じる。

各地の子どもへの影響をめぐっては、福島県歯科医師会が東北大などと二三年十二月から、乳歯の放射線量の強弱を測定している。

松井さんは「科学的なデータが集まれば、国や自治体に広範な調査を求めていく。事故で何が起きたのかを明らかにし、子どもたちの未来を守りたい」と協力を呼び掛けている。問い合わせ先は、乳歯保存ネットワーク＝058(296)4038へ。



ストロンチウム90

半減期は28・8

年。空気や食べ物から体内に取り込まれると、骨や歯に蓄積しやすく、数十年もどどまると、白血病などの健康被害を引き起こす恐れがある。